

The Japan Institute of  
Architects Kyushu branch  
全国建築士会連合会九州支部

JUN.2021

# BULLETIN Kyushu BRANCH

九州で活躍する建築家のための情報誌

## Contents

支部長挨拶	P2
オピニオン	P3-P5
支部長漫遊記	P6-P8
教えて	P9-P10
とりせつ	P11
トピックス	P12-P13
あのこと	P14-P15
よかもん	P16-P17
わさもん	P18
委員会報告	P19-P22
地域会活動報告	P23-P35
編集後記	P36



## 支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

今年は梅雨入りが早かったようで、初夏の到来が間近に感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

JIA九州支部は5月22日に通常総会が開催され、2021年度がスタート致しました。総会会場の福岡県が緊急事態宣言下であった為、集合形式の開催を断念しオンライン開催となりましたが、全ての議案が承認され滞りなく終了しました事を、この場を借りてご報告申し上げます。

2021年度は、昨年度に引き続き「未来への結束」をテーマに、支部会員の結束と連携を図りながら、九州支部のさまざまな事業を強化し、支部全体で活動を支援する体制を構築して参ります。また、九州支部では昨年度のコロナ禍の経験から、オンラインでの活動や各委員会のリモート会議が円滑に開催できるよう環境整備を進めて参りました。事前の予約は必要ですが、全ての地域会が気軽に利用できる環境を整えておりますので、積極的にご活用頂ければ幸いです。

先日の6月24日には本部総会と理事会が同日に開催されました。感染拡大防止から本部での参加は叶いませんでしたが、昨年度の理事会も全てリモート開催となり、また各地を訪れ支部間の情報交換の場であった支部長会議も昨年は開催されず、直接お会いした事がないメンバーでの理事会は、なんともよそよそしい空気感が漂っていますが、今年度は集合形式で開催される事を期待し、引き続き九州支部長としての責務を果たしていく所存です。

今年度から広報委員会ブルテンの新企画として「支部長漫遊記」が始動しました。

私が各地域会を訪ね、地域に根差した活動をしている若手建築家の作品を実際に見学した上で、それぞれが設計プロセスを発表し、ひとつひとつの作品について参加者全員で議論するという企画で、先日鹿児島を訪ねてきました。

この場は「公の場で自作を語り、本気で議論しよう」という事だけを決め、他はあえて何も決めずに自由な討

論を目的としています。

今回は、鹿児島を拠点に活動している注目の若手建築家5名に参加いただきました。自身がこれまで歩んできた道や完成した作品から計画段階の作品など、その時々思考した内容を深く掘り下げ、問いかけていくという形式で議論は進み、中でもローカルで活動していく状況の過酷さや、それぞれの悩みについてオープンに語り合う事ができた事は、この企画の大きな収穫であったと思います。初回となった鹿児島で感じた事は、才能に溢れ意識の高い若手が多く存在しているという事です。これを機に、こうした議論の場を自ら創っていきます。と言ってくれた言葉が頼もしく、こうした試みをJIA自らが牽引し、九州全体の底上げになる事を願いながら、今後も若手育成の活動に注力していきたいと考えております。

今回は8月に熊本で予定されています。これから1年かけて各地域会の若手建築家とフラットな議論ができる事を楽しみにしております。

最後に、任期となる残りの1年。執行部一同頑張つて参りますので、今後ともJIA九州支部の活動にお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

梅雨冷えの厳しい折、会員の皆様には体調など崩されないよう、くれぐれもご自愛ください。



## 省エネ法と気候風土適応住宅



古川 保（熊本地域会）

### 「省エネ基準」

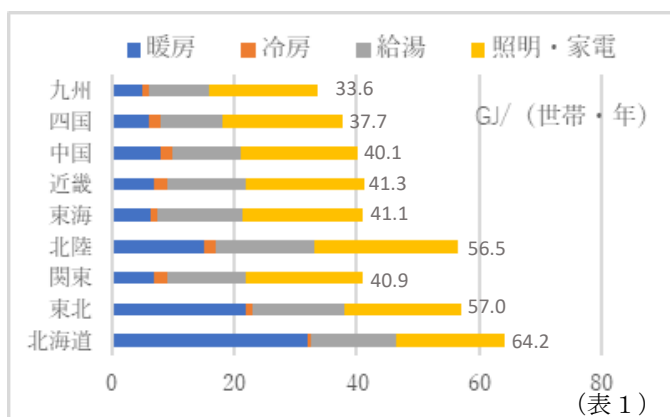
省エネ法は、外皮と1次エネルギー消費量（説明略）で規制されます。2020年の省エネ法改正により、全国の気候区分6地域から8区域に区分のやり替えが行われました。沖縄は、当然8地域ですが、九州の福岡市・長崎市・熊本市・宮崎市・鹿児島市は1ランクアップされ蒸暑地域の7地域になりました。ところが、外皮は、5, 6, 7地域の規制値が、同じUA値0.87なのです。成績表でいえば、優・良・可・不可の区分が同じ得点という摩訶不思議な基準なのです。よって、新潟と鹿児島が同じ基準値となり、年3か月も雪が降る地域と、年に1日しか降らない鹿児島が同じ規制値です。鹿児島の冬でも寒いからというのは全く論理的ではありません。どうも、基準値が外国より甘いので、外国に見栄を張りたいだけなのです。日本国は縦に長い国です。環境工学者は、よく先進地視察にドイツを選び、帰ってきて、日本はドイツに遅れていると口を揃えて言います。そのドイツは北海道より北のオフオーツク海に緯度にあります。九州は、アラブ連合国と同じ南国の緯度です。鹿児島は更に南方です（図1）



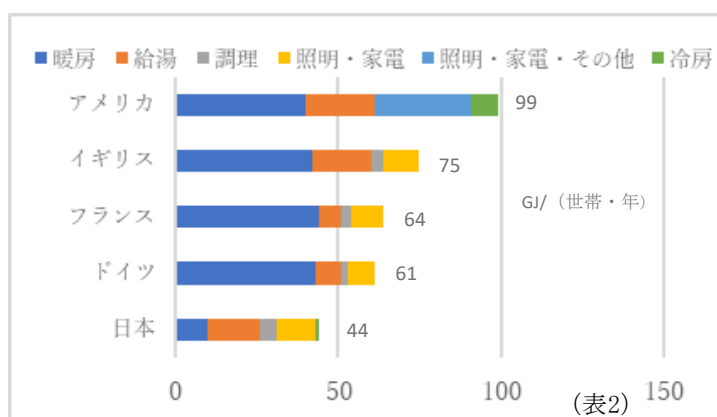
（図1）

### 「暖房エネルギー削減に特化した省エネ法」

消費エネルギーは、暖房・冷房・給湯・換気・照明・家電に分類します。その中の暖房エネルギー消費量は、北の国と比較して日本は少ないし、とりわけ九州は更に少ないのです。（表1. 2）エネルギー消費量を金額換算すれば、家電7万円、給湯6万円、暖房2.5万円、冷房1万円、照明2万円、換気0.6万円なのに、省エネ対策は、暖房エネルギー一辺倒です。常識としては大きい方から規制するのですが。



（表1）



（表2）

環境工学の方々日ごろからエネルギー消費量を研究されていますが、研究対象は北海道・北陸です。九州には関心がありません。分かりやすい規制値で、全国一律に公平に規制することに、環境工学者の意見は一致しています。

外皮は建築仕様や意匠に大きく影響するので、外皮規制はやめて1次エネルギー消費量削減だけで良いのではないかと意見しても、1次エネルギー消費量は設備機器の影響が大きいですが、外皮は恒久なので、新築時に規制しなければならないといえます。外皮とエネルギー消費量のダブルの規制値で規制するのは日本だけなので、世界に威張りたいたいだけでしょ。

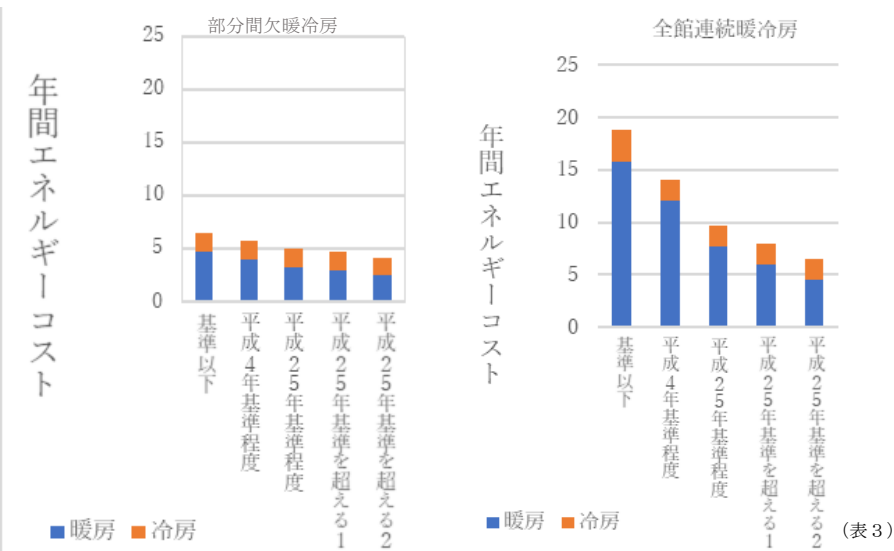
「ヒートショック論の破綻」

温熱環境は、断熱・気密・調湿・通風・蓄熱・輻射・それに体感が絡み合っ、複雑すぎます。解りやすいのは断熱・気密です。環境工学者が、国民にヒートショック論などを持ち出し、室温18℃以下だと血圧が上昇し、浴室で、心筋梗塞か脳梗塞心疾患で年間19000名が死亡していると根拠の薄いデータで脅かされてきました。その後、真の医者が、浴室での死亡はヒートショックではなく、熱中症と週刊新潮で発表したら、最近では言わなくなりました。(資料1)



(資料1)

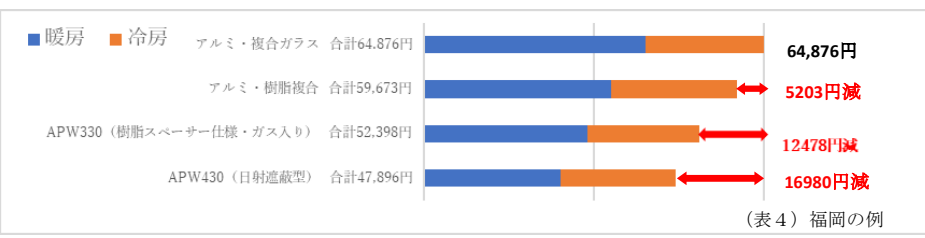
全館常時暖冷房の家は、当然エネルギー消費量が多いです。環境工学者は高気密・高断熱仕様の家で、全館常時暖冷房のエネルギー消費量の研究をし、外皮の性能を向上させれば暖房エネルギー消費量を大きく削減可能と力説します。(表3)。



(表3)

裕福でない庶民は、全館常時暖冷房の家は少なく、ほとんどが部分間欠暖冷房の家です。外皮性能をあげても、最初から少ない暖房エネルギー消費量(2.5万円)の削減量は少なく効果は薄いです。

また、断熱気密の産業業界は、計算に大きく協力してくれます。高性能の複合樹脂サッシを使用すれば1.7万円も削減できるというデータを作っていますが、2.5万円のエネルギー量がどうして1.7万円も削減になるのでしょうか。(表4) 福岡の例



(表4) 福岡の例

さらに、アルミは資源リサイクルの王様ですが、石油製品の樹脂複合サッシは、リサイクルは効かず、埋め立てゴミです。ガラスは、Low-Eガラスにすれば重金属塗布があり、リサイクルのはずが、これまた埋め立てゴミになります。益になると思っていたら、別の悪を生むというリスク・トレード オフです。

【気候風土適応住宅】

日本の家は「夏とすべし、冬はいかようにも住める」を基本にしていて、気密性のなさが長寿につながったともいえます。外皮規制の断熱・気密だけでは、調湿・通風・蓄熱が無視され、長年培ってきた日本の建築文化が失われるかもしれません。それで「気候風土適応住宅」ができました。

気候風土適応住宅とは、地域の気候及び風土に応じた①様式・形態・空間構成、②構工法、③材料・生産体制④景観形

成及び⑤住まい方などの特徴を多面的に備えている住宅であることで、外皮基準に適合させることが困難であると認めたものであります。

2021年4月1日から300㎡以下の建物に努力義務が科せられました。建築主に対して、外皮と1次エネルギー消費量に適合しているかを説明し、適合していなければ、適合するように断熱材割増等を提案しなければなりません。上記⑤の住まい方の人に、夏は扇風機、冬はこたつで最高の省エネ生活なのに、年中エアコンの生活を勧めるということになっています。

#### 「告示786号」

気候風土適応住宅は告示786号1項と2項から成っています。1項は全国共通で、「土壁」仕様と「落とし板壁」仕様です。気候風土は地域性が強いので、全国一律基準は困難なので、前記①～⑤の観点から所管行政庁が作成することになっています。熊本県は建築士会、建築家協会、建築事務所協会、学識経験者に呼びかけ2項を2020年に素案を作りました。基準は、次の中からいくつかを選択するようにしています。

- 地域材を使い、手刻み・墨付けを行い、伝統構法の仕口・継ぎ手であること
- くまもと型伝統構法による木造建築物であること      ○床が無垢板であること      ○屋根が化粧野地天井であること
- 軒の出が90cm以上であること      ○通風に配慮し、複数の窓が配置したもの      ○大きな窓か縁側あること
- 畳の間や土間があること      ○南か西に木を植えること

以上は熊本の例ですが、現在福岡の建築士会長である鮎川氏が福岡版を作成中です。

#### 省エネ計算

省エネ計算は実務者の実施率は全国で50%です。そこで国は「簡易計算ルート」と「モデル住宅法」を作りました。しかし簡易計算ルートでは、デフォルト値が高く、断熱材天井200mm壁100mmペアガラスでは適合しません。そのことは「建築士2月号」に清水淳氏が指摘しています。（標準計算UA値0.82、簡易計算ルートUA値1.04、モデル住宅法UA値1.03）簡易計算ルートを使って適合させるには、前記述の高性能樹脂複合サッシュにしなければなりません。総合的には、生産時のエネルギー消費増ではないでしょうか。

地球は温暖化になっているというのに、冬仕様をすすめ、また、夏でも窓を閉め切り、全館常時暖冷房が省エネだといひ、機器満載のZEH仕様にすればゼロエミッションになるとは、健康食品を腹一杯食べれば、健康になるという論理に思えてなりません。

#### 日本の住まいの復権を九州から

気密性向上には内装にビニールを張り巡らさないほとんど基準には適合しません。雨カップをまとっているような家は好きにはなれない人は、昔の日本の生活に戻しましょう。

また、ウッドショックで調べていたら床梁露出の家は日本全体で3%らしいのです。中途半端に高气密高断熱の家を目指すより、杉の木生産全国1位、2位、4位の九州では、無垢材に囲まれて、大きな窓を付けて、「扇風機とこたつ」の生活で「気候風土適応住宅」を目指す方が、真の持続可能な建築物のような気がするのですが。

## 支部長漫遊記 IN 鹿児島

JIA九州建築新人賞の創設を見据える中で、九州各地の若手建築家が地元へ根付きながらも活躍の場を外に広げる契機になればと発案されたブルテンの新コーナー「支部長漫遊記」。

第1回は6月11日に松山支部長の故郷鹿児島での開催となり、鹿児島を拠点に活動する若手建築家5名が自身の作品や活動・取組みを発表し、支部長クリティークや若手同士の意見交換が行われた。



鹿児島県信用保証協会新事務所 視察風景  
鹿児島市加治屋町

まず15時より竣工したばかりの「鹿児島県信用保証協会新事務所」（設計者：みのだ設計 担当 蓑田 朋章さん）を視察。建物概要は鉄骨造6階建て、敷地面積：約690㎡、建築面積：約470㎡、延床面積：約2,540㎡、用途は事務所である。約1年半前にプロポーザルで設計者として選定され短期間の設計期間を経て、地元の坂本建設さんによる丁寧な施工で竣工。7月に事務所移転を迎える。

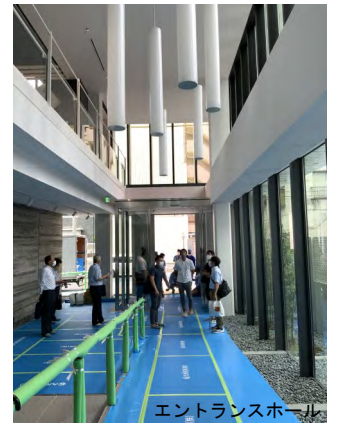
上下階を結ぶ特徴的な吹抜空間が内外空間をやわらかく繋ぎ心地よい。設計コンセプトや苦労話、こだわったポイント、所長さんとの関係、法的なこと、プロポーザルのこと施工サイドからの提案など様々な建築話を伺いながら1階から6階まで室内をまわり、外部メインファサードや道路反対側のファサード、駐車場までじっくりと1時間30分。支部長の鋭い質問に笑顔で明快に答える姿が印象的だった。



水本 浩二（鹿児島地域会）



吹抜空間でクリティーク



エントランスホール

その後、徒歩で天文館に二本松馬場通りのレンタルスペースに移動し、17時より支部長と5人の若手建築家による支部長漫遊記が始まった。

### 【宮崎響平さん】

3年前に大学卒業後、父の経営する設計事務所に勤務。

入社して最初に手掛けたのはマンションのエントランスの装飾デザインで、ワイヤーで昇降できる直径3.4m×高さ6mのランプシェード。工事の職人さんが写真を撮りまくってくれたのが印象に残っており、ものづくりの良さを感じた。同じマンションの1LDKを2LDKに変えられる格子状可動間仕切りをはじめとして「動くものシリーズ」を幾つか手掛け、ほかの建築においても採用している。ホテルのロビー改修ではCAD「ライノセラス」のプラグイン「グラスホッパー」を用いて、人の動線をアルゴリズム解析し最適化されたロビーのベンチをデザイン、レイアウトした。また、木造動物病院では「グラスホッパー」のプラグイン「カランバ」を用いて筋交いを省くための構造検討を行った。

公共的建築では路面電車が走る市道を跨ぐ30m×15mのジョイントアーケードを紹介。様々な顔を持つビルが集積しているまちなみのどれにも属さない透明感のあるものにしたいと考え、部材を細くしながらスパンを確保できるように解析で最適化された断面を構造設計者に提示した。困難な立地条件と1日4時間程度の限られた時間帯で

行われる施工については、プロポーザル段階から詳細を詰めて考えていた。

#### 【徳永考平さん】

出身は佐賀県、昨年の結婚を機に鹿児島に移住、大学を卒業後6年間中国で仕事をしていました。

上海市内の雑居ビル大規模改修（構造フレーム以外全てやりかえ）や敷地50,000㎡の工場跡地に既存改修と新築をミックスし、スポーツ系施設やマーケットを混ぜた大規模複合施設を担当した。

中国での広大なプロジェクトをやった経験で人間力が鍛えられたと考えている。

建築を考える時コンセプト重視だと手が早くならなかったもので、翌日までに数案出す、弾を打ち続けるという中国での経験を経て、頭で考える前に手を動かすことが身についたのはよかったと感じている。

鹿児島で開設する事務所の名称を「アトリエサラダ（Social And Local Architecture Design）」と決めた。社会につながり地域に根差した建築をつくりたい。



レンタルスペースでの支部長漫遊記風景

串木野市の路面店の改修（クリーニング店から発酵食品の直売と加工を行うデリにリノベーション）では、なつかしさと新しさを併せ持つような、周囲の商店街の風景に馴染みつつも目立つ色彩・デザインとした。「かっこよすぎず、かわいすぎず、でも開いているもの」を目指している。

支部長クリティークでは、設計したものがその人のものだとわかる設計者もいるが、徳永さんは得体のしれな

い、いろんな状況に合わせて解答を見つけていく設計者ではないかと評された。

#### 【養田朋章さん】

4年前に鹿児島に帰郷した。以前勤めていた大手事務所では大学や研究所等を多く担当していたが、地元に戻って自分が全て把握できる大きさの建物を担当できることに喜びを感じている。

支部長、幹事長、広報担当による事前見学があった事務所ビルの紹介では、シルエットだけで分かる、サラサラとしている、シュッとしているという擬音的な、詳細は分からずとも大きく認知されていることが公共性と考えた。モジュールに従ってつくることをとても大切にしている、大きな建物をコントロールするときにモジュールに従っていれば、ガラスの厚みといった細部までコントロールすることができると考えている。外装の色は設計時に白で決まっていたが現場で絶対に変更するつもりでこっそり予算に組み込んでいた。施主には外観図での色彩パターンは見せず、職人さんに現物見本を作ってもらい現物で承認をもらった。

矩計図がかっこいい建物がかっこいい建物だと考えていて、自分が見せたい部分の矩計図を必ず描くようにしている。支部長クリティークでは、モジュールに関するこだわりを両者が延々と語り合った。

#### 【木元達也さん、JIAジュニア会員】

鹿児島市内で設計事務所を主宰している。大学では建築を学んだが3年程テレビ局関係に勤めた。その後工務店に努めて34歳で独立し現在7年目。

桜島が望める海辺の高台にある最近竣工した住宅を紹介。広すぎる敷地の分筆にかかる費用が高額にならないギリギリのラインを設定することを施主と検討した。敷地面積に対して9%くらいであれば法務局から分筆を認めてもらえるということも分かった。床面積は最初300㎡で計画していたが、相続税の緩和が適用される240㎡に収めた。螺旋階段とスロープを付けたいと要望された施主に宛て、オープンハウスで提示したコンセプトを紹介。

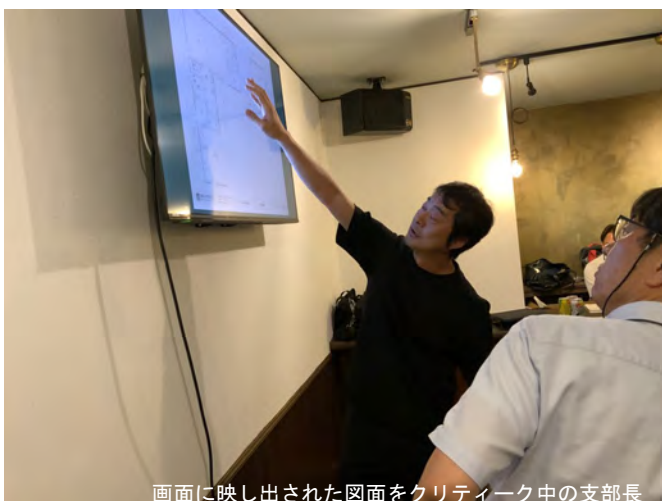
「高低差があることは不思議と心がわくわくする。その高低差を楽しんだ先に海が見えると感情が動かされる。海沿いの、道路より少し上がった、景色の良い別荘を想

像させるような位置にある。景色を望むために吹き抜け大空間サッシを設けることにした。その大きな吹き抜け空間のリビングダイニングスペースに向かうには長いスロープ空間がある。その長いスロープ空間は海を臨むための感動増幅装置となるだろう。．．．」

施工者からの見積が予算の1.5倍になり、完成まで2年もかかってしまったと反省する木元さんに対し、支部長から「2年？普通じゃないの。1.5倍？優秀じゃないですか」と称賛され、スロープがこの建築の個性、スロープがもっと他の空間にも入り込んでいくともっと個性的になったかもしれないと評された。

#### 【酒井一徳さん、JIAジュニア会員】

普段は奄美で活動、大学の学部では土木を専攻していたがアメリカの大学院で建築を学び始め10年前に奄美に戻ってきた。



画面に映し出された図面をクリティーク中の支部長

太平洋を眺める広大な敷地に建つ店舗付き住宅の事例を紹介。

奄美で住宅を考える際に子供部屋のあり方に気を付けている。奄美では高校を卒業すると、大学以降の教育を受けるためには島を出ていかななくてはならず、小学生の間も子供部屋はあまり使わないことを考えると子供が個室を使うのはわずかな期間だという。

奄美での暮らし方を意識した建築として玄関のあり方を模索しながら、最初のイメージで分棟型プランを提示したが施主との対話を続けていくうちにプランが変容していく経緯と完成後のプランを説明。

支部長クリティークでは酒井さんの特徴として施主の要望を受けてプランが変更していくため、最初のイメージと終着がかなり違うものになってしまっていると指摘を受けた。ただし酒井さんも最初のイメージで最後まで完成したのものもあるとのことで、別の機会に紹介すると約束した。

最後に松山支部長の近作を紹介。

小児科診療所+薬局+病児保育を紹介した。子供が抵抗なく利用できるために庭を取り込むため、外壁を平面的に湾曲させてできたスペースに庭を取り込むプランとしたが、曲線を使ったプランはこれが初めてで、箱型でスクエアな建築を求めている施主に対する提案は受け入れ難いのはと事務所スタッフからも反対され、プレゼン時に施主からも「何かの嫌がらせですか」と驚かれたが、イメージを曲げずに施主を説得し実現に至った。

支部長自身もコンセプトチャルなもの、ストーリーを作ってから建築をつくっていくことの重要性に気付いたのは40歳を過ぎてからであり、それから徐々に建築雑誌にも取り上げてもらえるようになったと紹介、集まった若手建築家の将来に期待して会を終了した。



近作を紹介する支部長

当日は福岡県が緊急事態宣言期間中だったため、支部長、広報担当者は事前にPCR検査で陰性確認の上、来鹿いただいた。会場はレンタルスペースを貸し切りとし、窓を全開放し、密にならぬよう感染症対策を徹底して開催した。当日のJIAサポートメンバー 下山道男幹事長、肥後潮一郎代表幹事、志賀隆行、水本浩二、有吉兼次（広報）



## 「コトづくり、モノづくり、ヒトづくり～ご縁に感謝しながら～」



矢作 昌生 (福岡地域会)

事務所設立と教職に就いて、もうすぐ四半世紀になるうとしていますが、このような振り返りの機会を頂けたことに感謝しております。

建築は「コトづくり」から「モノづくり」とよく言いますが、私自身もそのふたつに注力して来ました。特に「モノづくり」は小さな頃から大好きで、ジオラマ模型を作り、TAMIYA模型の機関誌に応募するような小中学生でした。しかしながら、いつしか人の成長を見守ることに最大の喜びを感じるようになりました。それは、仕事も少し落ち着いた頃、41歳という年齢になって初めて自分の子供が生まれた事が影響しているかも知れません。

1997年1月、30歳の時に留学先のアメリカから帰国しました。東京出身の私の引越し先は福岡県北九州市でした。留学前に3年半の実務経験と一級建築士免許を取得していたので、どこで独立しようか迷っていたところ、たまたま北九州市の方から最初の設計依頼があり、迷わず決断しました。それからご縁が続き、約20年間、北九州市に事務所を構えておりました。

一方、教職については、メイ建築研究所の岩野次雄氏(故)の息子さんの卒業設計をたまたま講評させて頂く機会があり、息子さんがお父さんに推薦してくれて、幸いにも帰国直後の1997年4月から西日本工業大学で非常勤講師のご縁を頂きました。独立したと言っても他に仕事はなかったもので、定期収入はとても有り難い思いでした。余談ですが、夜にはECC小倉校で英語を教えて食い繋いでいました。事務所ではスタッフ募集は基本的に行っていませんでしたが、ホームページや雑誌などを見て、ご縁を頂き、今まで19名のスタッフが卒業しました。関東、福岡、沖縄などで独立しており、彼らの活躍が私の楽しみのひとつとなりました。つい最近も、一番長く働いてくれた女性元スタッフが独立後、新建築住宅特集に初掲載され、我が事のように喜びました。

西日本工業大学では11年間非常勤講師としてお世話になりましたが、関東にも事務所を構え2拠点となり、建築家として一皮剥けるためには、設計活動に重きを置くべきだと考え2007年に退職させて頂きました。しかしな

がら、決断とは裏腹にその直後、母校である日本大学の非常勤講師の依頼が先輩の先生からあり、九州工業大学に建築学コースが新設され、そのスターティングメンバーとして来て欲しいと徳田光弘先生から相談があり、その上、JIA北福岡会主催の日韓合同ワークショップがご縁で、釜山の東亜大学から客員教授の依頼があり、断れない性格が災いか幸いか、全てお引き受けしました。1週間のうちに、北九州、千葉、釜山を移動しながらの教職と、北九州と横浜の事務所を往復しながら、遠方では沖縄の設計監理を行っていましたが、不思議と疲弊することなく、充実した日々を過ごしていました。

同時期に3つの違う場所での教育経験は、それぞれ教育方針も学生の姿勢も異なり、とても良い勉強になりました。東亜大学での授業は英語でしたが、日本に比べて韓国の学生の方が語学力に長けており国際意識が高く、CGなどのコンピューショナル教育においても先を行っていますが、コンセプトメイキングなど思考プロセスを重視するという点では日本の教育の方がリードしていると思います。

充実した日々の中、大学4年間を通した教育に携わりたいという思いが少しずつ出て来ました。建築を全く知らない1年生に如何に建築の楽しさを伝えるか、少し建築がわかって来た時に、建築という分野の広さと深さ、答えがひとつでない世界で自分なりの答えを作る姿勢、いろいろな知識や技術がついて来た時に、それらを総合的にまとめあげ、これから建築の実社会に出るための準備と覚悟など、一貫して教えてみたいと思うようになりました。

ちょうどその頃に、九州産業大学で教員公募が出ていることは知っていましたが、アカデミックな分野に身を置いていない私は、そういった人事は内々で決まっているのだろうと思っていました。そんな時、偶然、江上徹先生に東京のギャラリー間の前でお会いしました。立ち話の中で公募についてお聞きしたところ、「誰も決まっていない、公平な公募だから、矢作君も応募してみたら」と言って頂きました。勝手に運命のようなものを感じ

じて応募しました。そして、採用が決まった後、江上先生の後任人事だったことを知りました。

そのようなご縁で、2011年4月に准教授として着任しました。着任してすぐに数名の学生から、建築を真剣に勉強するサークルの顧問になって欲しいと相談がありました。サークルという響きが私にはピンと来なくて、道場なら引き受けると回答し、「ABC建築道場」が誕生しました。彼らに出会っていなければ、教職を続けていたかどうかと思う時もあります。活動としては、毎週テーマを決めて模型作品を作り議論を行う「しゅうまい」、第一線で活躍している建築家を招聘した講演会、学内で会場デザインまで行う活動展、国内外のワークショップや講演会への参加などです。講演会も単に開催するのではなく、講演者のテーマで勝手に作品を作り、懇親会で発表を行う「ゲリラしゅうまい」など、積極的な学生の姿勢が好評で、講演者の事務所への就職や大学院への受け入れに繋がっています。

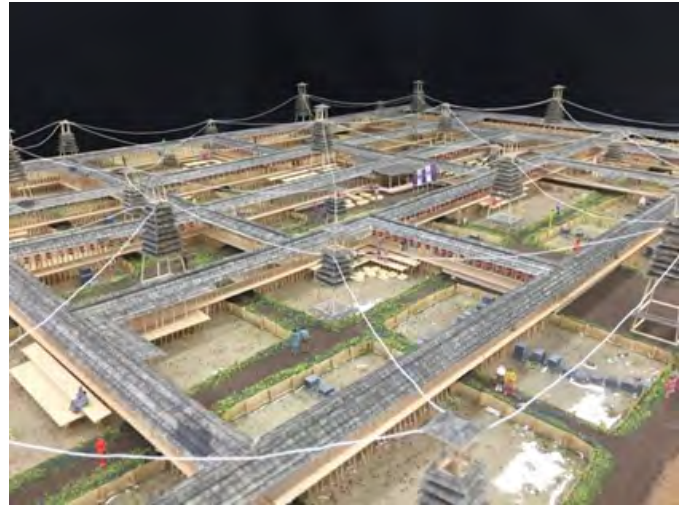


しゅうまい作品抜粋 テーマ「不足」\_210607

現役メンバーは30名くらいで、OBOGは100名を超えており、1期生のほとんどは自分の事務所を設立したり結婚して家庭を持っています。OBOGから一級建築士試験の合格、独立、結婚や出産の報告を受けた時や建築専門誌で名前を見つけた時には、自分のこと以上に喜びが込み上げて来ます。

2016年SDL卒業設計日本一決定戦では、「日本二」になりました。毎年仙台に同行していますが、審査投票で一位になった時には、心臓がバクバスでした。残念ながら、最終の議論で「日本一」にはなれませんでした。先輩の背中を見た後輩は、2018年には日本12位、2020年には11選（審査過程では4位）とコンスタントに全国でも戦えるようになりました。本学は偏差値では決して誇れるレベルではありませんが、「好きになること、やり続

けること、みんなで学ぶこと」によって、切磋琢磨し成長しているように感じています。



「金魚の水荘」元村文春 九州産業大学

2016 SDL卒業設計日本一決定戦「日本二」

2016 FUKUOKA DESIGN REVIEW 最優秀賞

JIAの仲間からはもう設計活動はやっていないと思われるかも知れませんが、全てのプロセスに関われるように年間2～3件竣工のペースで「モノづくり」を継続しており、実務と教育を横断するからこそできる事も模索し続けています。その一例として7月にはABC建築道場と西日本工業大学石垣研と取り組んだ模型アイデア図鑑が出版されます。



「大屋根の家」2021年5月竣工

写真：矢作昌生建築設計事務所

## 「2年間本部理事務めて」



柴田 真秀 (熊本地域会)

2019年の6月から理事会に出席するようになり、早2年、6月の総会をもって任期を終えます。前理事の佐々木信明さんから受け継ぎ、前支部長の川津さんと1年間理事会に同席しました。理事会は年8回あり、日本建築家協会（JIA）の意思決定機関になります。

各地域会、支部の意見を理事会に挙げ、そこで討議を行い決定するようになります。時間は13時半から3時間です。審議、協議、報告の順に進みます。審議で可決すれば、理事会の決定事項になります。長い間協議している事項もあります。新たに理事になった人には、なかなか理解できないこともあります。そのため朝の11時半から13時までの間勉強会が行われます。協議するための内容を事前に深堀して、理事会に臨むこととなります。いつも協議事項に即しているわけではありませんが、この勉強会は重要です。

川津前支部長と理事会に行く際は、早朝に九州を飛び立ちこの勉強会の前の2時間を展覧会、建築見学の時間にしていました。とても楽しい充実した時間でした。国立近現代資料館であった安藤忠雄原凶展や吉田哲郎展は、特に印象深かったです。しかし2020年3月からコロナの影響で集合形式の理事会はなくなりリモート会議になりました。残念ながら、松山支部長とは一度も理事会には、同席できませんでした。

私は、佐々木さんから理事だけではなく財務委員も引き継ぎました。この委員会は、JIAの財布を管理する委員会です。委員会の規定で会議の内容は他言しないことになっております。しかし少しだけ話しておかないといけないことがあります。現在会員が約3300人です。毎年会員が減少しております。3000人を割るのもそう遠いことではありません。そこで3000人体制のJIAのシュミレーションを行い、支出を抑える方法、収入を得る方法等を検討しております。もちろん会費の値上げも必要になってくるでしょう。ところがコロナ禍において理事会、委

員会ができなくなり今年度の収支（総会報告あり）は大幅な黒字になっております。理事会、委員会の交通費の減少が大きいです。そもそも活動ができておりません。

ですが、私は理事会は対面形式ですべきであると思っています。JIAは単一組織でありますので、各支部が何を考えて、何を行動しているか各支部長同士が直接お会いして、話すことが重要で対面することで理解が深まると思っています。

次に2020年の6月に支部長以外の理事7名が指名され、コロナパンデミックワーキンググループが業務委員会の中に立ち上げられました。コロナ禍の中JIAとして、何が起き、何が問題で、どう対処するか等、月に4回程度討議し理事会に報告してきました。最終報告書は、総会後に提案書という形で提出します。また今後は、パンデミックワーキンググループは、「オンライン・リモート対応や環境整備特化した特別委員会」に受け継がれます。2020年6月に初めたころは、このパンデミックは、1年以内に終わるだろうという私の思惑に反してまだまだ収束は見えません。今後いろんなところに影響が出てきそうですが、やはり今回のコロナ禍で一番の変化は、コミュニケーションの変化、即ちウェブ上でのコミュニケーションになってしまったことでしょうか。仕事のやり方、暮らし方、暮らす場所等に大きな影響を与えています。コロナ禍が去ってもこの影響は、続いていくでしょう。

最後になりましたが、理事を2年務めての感想ですが、なかなか責任の重い役職でありました。全国の支部長、理事とお会いして、JIAの会員は、建築にすごくまじめで真摯に向き合っている方々だと実感いたしました。全国のいろんな地域で建築家として仕事をされている方々とJIAを通じて友人になれました。やはりこのJIAは、建築家の存在意義を考える会として将来へ持続していかなければならないと改めて確信しました。

## めがね橋



坂本 肇（大分地域会）

石材を使った橋は「石橋」といわれますが、形状で大別すると、石橋は「桁橋」と「アーチ橋」に分けることができます。アーチ橋は各地域で「眼鏡橋」「目鏡橋」「目鑑橋」「車橋」「太鼓橋」「石眼橋」などと、表記や呼び方が異なりますので、一般的に石造アーチ橋を「めがね橋」と呼んでいるようです。

日本には数多くの「めがね橋」が築かれていておよそ2,070ヶ所あります。そのうち大半が九州に築かれていて1,850ヶ所程あり大分県にはおよそ500ヶ所の「めがね橋」を有し全国一位です。その中でも私の生まれ育った豊後大野市にはおよそ110ヶ所あり、次いで宇佐市におよそ100ヶ所、竹田市に55ヶ所程あります。特にトンネルが多く別名「れんこん町」と言われる竹田市周辺にはりっぱな石橋が沢山あります。阿蘇溶岩台地が侵食されてできた地形上溪谷が多く必然的に洪水でも流されない石橋が求められたのでしよう。

この様に私の住む大野川水系の河川に架かる橋や井路に架かる橋など竹田市、豊後大野市には大小合わせて150カ所を超える石橋があります。まさに石橋の町です。明治、大正に架けられた橋も多く、現在でも立派に現役で活躍しているのを見ると、先人の技術の高さに驚きます。それらの竹田市と豊後大野市の「めがね橋」について少しご紹介したいと思います。



虹潤橋（柳井瀬橋）

大分県豊後大野市三重町 架橋：文政7年（1824） 橋長：31m 橋幅：6.5m 径間：25.2m 野津町との境界の三重川の深い谷間に架かる単一アーチ橋。3年半の工期で完成したが、架橋に私財を投じた白杵の甲斐源助、三重の多田富治、後藤喜十の3豪商は架橋後没落したと伝えられています。虹のように美しい石橋です。



原尻橋

大分県豊後大野市緒方町 架橋：大正12年（1923） 橋長：73m 橋幅：4m 径間：13m 緒方川のゆったりとした流れの中に架かる5連アーチ橋で、周囲の自然風景とマッチした景観はすばらしい。町内には緒方川を含め、大小二十数基の石橋が現存しています。



明正井路第一拱石橋（明正井路一号幹線一号橋）

大分県竹田市門田 架橋：大正8年（1919） 橋長：78m 橋幅：2.8m 径間：10.7m 緒方川のゆったりとした流れの中に架かる6連のアーチ上に4段の石壁を積んだ重厚な構造となっています。江戸末期にすでに構想があったが、実際に着工されたのは大正時代に入ってからで、1号、2号幹線は1919年（大正8年）に竣工した。「明正」の名は、計画及び工事が明治時代から大正時代にわたって行われたことに由来します。



### 山王橋

大分県竹田市飛田川 架橋：明治40年（1907） 3連アーチ橋。この橋の特徴は上流側にある水流の強さをやわらげる水制工の作りが緒方町の石橋等とは異なり丸みを帯びていることです。この橋の架かっている道は、熊本県の山鹿に通じる昔の幹線道路でした。今は脇道になっていますが架設から100年近く地域の人々の利便性に多大な貢献をし、今も現役の橋として使用されています。



### 岩戸橋

大分県竹田市荻町 架橋：嘉永2年（1849） 橋長：28.2m 径間：17.4m 現存する中で大分県内3番目に古い石橋であるとされる（5番目とする資料もある）。昭和49年（1974年）3月19日に石橋としては初めて大分県の有形文化財に指定されています。かつては柏原地区と岡藩の城下町であった竹田を結ぶ唯一の経路でしたが、この石橋が架けられるまでは、土橋が台風などでたびたび流失した上、馬車の通行が困難であったため、当時の庄屋が岡藩に嘆願し、銀札二貫六百匁（約50両）を借り受けてこの橋を完成させたものである。現在も、岡藩への嘆願書や設計図などの貴重な史料が残っています。



### 轟橋

大分県豊後大野市清川町 架橋：昭和9年（1934） 橋長：68.5m 径間：左32.18m、右26.5m 奥岳川が轟川と合流する地点のすぐ上流に架かる橋である。2連アーチの径間は、右岸側が32.1m、左岸側が26.2mで、右岸側の径間は日本国内の石橋で最長である。この橋付近の奥岳川の渓谷の峻崖にはしゃくし岩と呼ばれる柱状節理が見られ、石橋とともに絶景を成しています。



### 出會橋（出会橋、出合橋）

大分県豊後大野市清川町 架橋：大正11年（1922年） 橋長：32.3m 径間：29.3m 奥嶽川が轟川と合流する地点のすぐ上流に架かる橋である。アーチの径間は29.3mで、約80m上流に架かる轟橋に次いで日本国内第2位です。1922年（大正11年）に国鉄犬飼線牧口駅（現JR九州豊肥本線豊後清川駅）が開業したことを契機に、牧口駅への交通の便を図るために、兩岸の平石地区・轟地区の住民によって1924年（大正13年）に架けられました。



### 明治橋（日本最古の現役の鋼橋） おまけ

大分県白杵市野津町大字野津市の大野川水系に架かる鋼橋。原位置（架橋当初の場所）にある現役の鋼橋としては日本最古の橋です。また、日本最古の鋼・コンクリート合成床版を有する鋼橋です。この橋の架設当時は、日本では製鉄はほとんど行われていなかったため、英国から輸入されたドーマンロング製の鋼材が使用されています。2005年（平成17年）に土木学会選奨土木遺跡に選定されています。

## 2007年 JIA九州支部大会の思い出

地域会の肥後代表から突然、鹿児島であった支部大会についてブルテン記事の依頼がありました。急な話だったので記録を引き出してみますと色々となつかしく思い出す事がたくさん出てきました。

当時、地域会代表だった上鶴眞一氏が支部役員会から帰ってきて「今年は鹿児島で支部大会をせんといかん事になった。去年は宮崎の綾でやって九州でやっていないのは鹿児島だけだと言われて断れなった。」と神妙な声での報告から始まりだったと思います。

初めてで慣れない事でしたが地域会皆でやろうじゃないかと盛り上がると「そう言ってくれると信じてたよ」と上鶴氏が安堵した声を漏らしたのを覚えています。

記録を見てみると最初の実行委員会を6/28に行い11/24の支部大会当日に向けて悪戦苦闘の作業を始めています。支部大会は建築塾がセットになっていて、その年はJIA会員作品紹介としてJIA九州建築展があり九州を巡回していくという計画もあり、折角なのでその建築展を鹿児島での支部大会に合わせる事にもなり早速、会場探しが始まりました。

支部大会と建築展も同時にやれる会場が中々無く困っていると地域会の旧代表の武田会員から「鹿児島近代文学館」の2階にも間仕切りの構成が変えられるコンパクト

なホールがあると教えて貰い交渉開始。前準備のポスター等の作成も始めました。リーフ



建築塾作業風景

レットの制作にはパソコンでやっと使い始めたイラストレーターで両面印刷のものを作り、事務所で印刷



建築塾夜食

し三つ折り作業まで皆でやるという全て手作り状態でした。建築塾は別メニューを2週に分けてA,Bユニットで行う事になり福岡、大分、熊本、鹿児島と塾生は5人の参加がありました。講師にはAユニット(11/17.18)は宮崎の当時「竹の会」代表だった岩切平氏に、Bユニット(11/24.25)はJIA福岡地域会の水野宏、松岡恭子両氏にお願いしました。この建築塾会場探しも大変でしたが食事、宿泊が出来て建築塾の活動を考えると夜間まで使える場所という難題に鹿児島市北部にある鹿児島県青年会館「艸舎」を見つける事が出来ました。

各ユニット共、午後から講義が始まり夕方には地位会の吉永詠子会員が作ったカレーで食事をとりその後はお酒も入って講師を囲んでの建築談義で夜更かしというお



建築塾最終集合写真

決まりのコース。今のコロナ禍では考えられない話です。

支部大会のテーマは「景」としました。時代が景観に大きく比重を置くようになってきたからでした。それに合わせて基調講演とパネルディスカッションを計画。支部大会は11/24（土）に開催。鹿児島市内の城山ふもとにある鹿児島近代文学館2階ホール。会場では前日から九州建築展（巡回）鹿児島を行っており、当日は午前中に地域会皆で会場設営を行い、会場ホール入口横には前日からの建築塾で、徹夜で制作した塾生作品も展示し午後からの大会にのぞみました。

支部大会は当時の支部長、井上福男氏の挨拶から始まり、来賓挨拶にはJIA会長、仙田満氏に来て頂きました。その他の来賓には鹿児島県、鹿児島市、大学、建築士会、事務所協会と多くの方に来て頂きました。鹿児島地域会としては初めての事でしたが地域会行事にこれだけの人が集まって貰えたという事が大きな喜びと共に気が引き締まる思いをした事を憶えています。

基調講演は藤本昌也氏がテーマ「景」について、パネルディスカッションはコーディネーターとして安山宣之氏が務め4人のパネラーと「さつまのかたち」と題して進められました。

- ・藤本昌也 日本建築士会連合会副会長
- ・安山宣之 鹿児島大学工学部建築学科准教授
- ・松岡恭子 ㈱スピングラス・アーキテクト主宰
- ・東川竜太郎 NPO法人まちづくり地域ホールカゴシマ探検の会 専務理事
- ・浜本奈鼓 環境教育 NPO法人くすの木自然館専務理事

当日は学生、一般の方と140人余りの参加があり翌日の地元新聞にも紹介されました。

支部大会終了の後、来賓の方はホテルのレセプション会場に移動。その間、地域会会員皆で支部大会会場の片付とレセプション会場の準備にと分かれて大急ぎの作業。

レセプションではアトラクションとして島津義秀氏の薩摩琵琶の演奏から始まり、焼酎の原材料当てクイズ、建築塾生の紹介、各地域会会員との交流と続きやっとうっくりする事が出来ました。後日、上鶴氏から「無事に終わってホットした」という言葉を聞いたのを思い出します。今はもう、その上鶴眞一氏も吉永詠子氏も既にJIAを退会されています。

久しぶりに懐かしい記録を見ていると思出す事も多く又、時が経つのは本当に早いものだと痛感する次第でした。

九州支部大会 2007 鹿児島



仙田会長

■物故者への黙祷

- ・開会の辞 副支部長 平 憲治
- ・大会会長挨拶 支部長 井上 福男
- ・来賓祝辞 JIA会長仙田 満

■来賓

- 鹿児島市建築部参事 濱田 光隆
- 鹿児島県建築課長 熊谷 良博
- 鹿児島大学学長補佐 友清 典和
- 鹿児島建築士会会長 守真 和弘
- 鹿児島県建築士事務所協会副会長 林 陽朗



■基調講演  
藤本昌也  
「景」  
私の景観デザイン作法  
私たち建築家は建築街をつくってきたか

景観デザインの狙いは建築で街の空間をつくり演出することだと考える。私自身の住まい、まちづくりの実践事例の紹介を通しての講演



■パネルディスカッション 景・さつまのかたち

- ・コーディネーター 安山 宣之
- ・パネラー 東川 隆太郎 松岡 恭子  
浜本 奈鼓 藤本 昌也





## 私の愛車の履歴書

私は小さい頃からあまり人気のないものに魅力を感じたり、逆にアレンジしたりする事が好きで、ガンダムがブームの頃は、私は別のロボットアニメ観てたり、ファミコンといってもセガのゲーム機やったり振り返ると、とにかく人と違うことをやってる少年だった。

そんな小学6年生の頃によく通っていた模型屋に行った時、同じ車種のプラモデルが3～4個、ワゴンに無造作に放り込まれており90%オフの破格で売られていた。人気がなかったのか箱の車の絵を見ても日本車なのか外車なのか当時は判断できなかったが、未来風で流線形の丸い形に魅力を感じ1つ買い早速、組立てて色塗ったりして楽しんだ。しかしまだ納得いく出来ではなかった為、後日模型屋近くへ行く機会があり親に必死に頼み込んでワゴンの中の全て買ってもらった。箱の車の絵を見ながらドア、ボンネットを開閉出来るように改造したり、電球をたくさん仕込んで光らせたり何かに取り付かれたように同じものを何台も夢中に作っていた。

次第に興味も薄れ作らなくなって中学生になった頃、学校から帰宅中にふと道路の先を見た時、観たことのある車がこっちに向かって走って来る。小学校の頃に作ったあの車が目の前を走り去って行ったのである。衝撃を受けしばらくその車が見えなくなるまで立ち止まっていた。作っていた当時は車種名も気にせずひたすら作っていただけであったため、原寸サイズの実車を目の当たりにして・・・え？現実にあるんだ？外車？日本車？



白濱 宗徳（佐賀地域会）

メーカーは？とか色々疑問が湧いてきた。帰宅してすぐに押し入れから当時作ったプラモデルを箱ごと取り出して中の模型をマジマジと眺めて先ほど見た実車と比べて思いを寄せる。箱にはちゃんとメーカー、車種名も書いてあり日本の車であった。



1983年当時ショールムに行った頃一枚

てあり日本の車であった。

箱にはアルファベットでISUZU PIAZZAと表記されており小学生からすると英語が書かれている程度でしか見てなかったが、いすゞ ピアッツァという名前の車であった。近くにいすゞのディーラーが存在することを父親から聞いて翌日自転車に乗って見に行った。ショーウィンドウにピアッツァが1台展示されてあった。緊張しながら勇気を振り絞って店内に入りフロア女性の人に、「この車を拝見してよろしいでしょうか？」と慣れない敬語使って中に入れてもらい、模型と実物の違いを埋めるかのように全体のライン、ライト周り、車内の内装、じっくりと食い入るように時間も気にせず見ていた。フロアスタッフの方も私を変わり者の様に見ていたが、



閉店の時間もあり  
スタッフの方も気  
を使ってくれてピ  
アツァのカタログ  
をくれた。感動  
しながら家に帰り



初の注文住宅竣工での一枚

もらったカタログを見ながらピアツァをいつか所有  
したいと意思が芽生えた日であった。

高校、大学、東京へ就職と人生を歩みながら絶えず  
この車だけは頭の隅に残っていた。ある時期に実家の父の  
仕事の手伝いをする事になり九州へ戻ることになった。  
地元は車がないと不便な事もあり、思い切ってピアッ  
ツァ購入を決心するも、すでにメーカーも製造していな  
い為、中古車で程度のいいもの探すしかなかった。当時  
はインターネットも普及していたので手間が掛からず程  
度のいいものが数台検索出来た。しかし旧車的な扱いで  
あったので九州圏内では0台、関東圏内まで足をのばす  
必要があったが、この車を所有する情熱は持ち続けてき  
たので迷いもなく関東まで行って実車の試乗して契約も  
済ませて帰ってきた。



国指定文化財 筑後川昇開橋を背景に一枚



ガレージの設計 竣工での一枚

陸送で数カ月後に  
自宅まで届いた時  
は感動し涙が出た  
ものだ。勢いで  
買ったせいか周囲  
からは故障すると



今年の元旦での一枚 現実、故障等何回

か色々言われたが  
自分にとっての大  
事な宝物ができた  
喜びと充実感で気  
にならなかった。

も経験してきたが、腕のいい整備士に出会ったこともあ  
り、今でも快適に私の足（道具）となって仕事現場や休  
日のドライブとして活躍してくれている最高の相棒であ  
る。

この車は1981年に販売が開始され製造終了の1991年ま  
でデザインを変えず販売されてきた。当時のカクカクし  
たデザインが主流であった車に対して流線形の曲面を生  
かした斬新なデザインであり当時から先進的な技術で造  
られていたと聞く。いすゞ車でも有名な117クーペや映画  
バックトゥーザフューチャーに登場するデロリアンは、  
かの有名な工業デザインの巨匠であるジョルジット・ジ  
ウジャーロの作品であり、当然117クーペの後継車である  
ピアツァも彼のデザインである。

誕生から約40年経過しても古さを感じさせず色あせな  
い車ISUZU PIAZZAこれからも大事にしていきたい。



**豊田 宏二** (福岡地域会)

この度、JIAに入会させていただきました豊田と申します。福岡県を中心に住宅、事務所、店舗などの設計に携わらせていただいております。私の建築的興味は前所属事務所の経験などから和風建築にあります。和風建築の持つ文化の積み重ねとしての建築の在り方は、言うまでもなく奥が深く、奥に進むとその先があることに気づくといったようなことの繰り返しです。そのようなことですから、確固とした建築的信念のようなものを持つにはまだまだいたりませんが、建築についてわからないままに、またわかっていないことを言い訳にして物件毎に比較的自由に、思うがままに設計を進めているのが恥ずかしながらの現状です。

JIAに入会させていただいたきっかけは、JIA九州支部が共催し、毎年行われている全国の建築学生



丸久本社屋 photo イクマサトシ (technistaff)

の設計競技イベント「デザインレビュー」の実行委員に協力させていただく機会があったことでした。その経験とJIAの活動の教育的側面に共感することもあり、入会を決心させていただきました。毎年、学生実行委員たちと半年以上のやり取りを重ね、年毎に学生のキャラクターの違いはあっても、彼らの建築に対する変わらぬ真摯さを目の当たりにするにつけ建築の未来はあかるいなあなどと素直に感じるところです。このような活動も建築に於いての持続可能性の大切な一環ではないかと感じており継続して関わっていきたくと考えています。また、デザインレビューに限らず、JIAの活動を通して、建築文化の普及に一役担えられるよう活動させていただきたく思っています。どうぞよろしく願いいたします。



**山崎 真司** (大分地域会)

この度JIAに入会致しました山崎と申します。故郷は島根県ですが、大学進学をきっかけに大分へ来て以来、温泉・海・山・食・人に魅了され、現在は大分県を中心に医療建築や住宅などの設計に携わらせて頂いております。

私が建築家の存在を初めて知ったのは、幼少時代に地元出身の著名な建築家が地元の清酒を飲んでいるCMを観たことでした。自身の作品を背景に日本酒を飲む姿がとても格好良く見え、建築家という仕事がどんなものなのか分からないまま憧れが大きくなっていったように感じます。その影響かは定かではありませんが、今では私自身日本酒を嗜む時間が、至福の時間となっています。

大分地域会には、下部組織として若手建築有志グループ+A (プラスエー) があります。建築学生から大工・設計事務所スタッフ・施工者など、建築を愛する若手有志が幅広い活動をしています。私もJIA入会前は+Aに所属し、同世代の仲間と切磋琢磨しながらJIA活動等に参加する中で多くの刺激を受けてきたことも、入会のきっかけとなりました。入会してまだ日が浅いですが、見えてくる景色や活動の幅も大きく変わってきたように思います。建築を造ることはもちろんですが、建築家は設計活動以外でもその職能を生かして社会貢献していかなければと思っています。数年前に県内を中心に空き家活用や空き家予防をサポートするため、各方面の士業を中心とした専門家がワンストップでサポート可能な「NPO法人空き家サポートおおいた」を立ち上げ、ハード・ソフト両側面でのサポートを行っており、行政との協働モデル事業やリノベーション等の実績も増えてきました。直近では、産官学連携による空き家となった建築を多世代交流拠点へとリノベーションするプロジェクトも進行中です。JIAでの活動を通して、今後多くの建築家の方々と出会い研鑽を積み、建築家としての職能の幅を広げ建築文化の発展・地域社会活動に貢献して行ければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



いいしい産婦人科醫院 (PHOTO by jirou satou)

③ 本部委員会・特別委員会活動報告	
1	<p><b>総務委員会</b> 下山道男</p> <p>1月22日 第7回            ①法人協力会員の資格要件について（建設業の基準）            ②文書管理に係る署名・捺印について            ③ジュニア会員の取り扱いについて（兼業事務所に勤務の場合）            ④委員会規程の準用基準について（非会員の件）            ⑤小規模会議WGについて</p> <p>2月16日 第8回            ①法人協力会員の申込書への追記            ②委員会規程の準用基準について            ③ジュニア会員の取り扱いについて（専門性）            ④文書管理に係る署名・捺印について 継続審議</p> <p>3月10日 第9回            ①フェロー会員の推薦について（8名）            ②法人協力会員の申込書への追記            ③委員会規程の準用基準について            ④文書管理に係る署名・捺印について            ⑤小規模会議WG報告            ⑥苦情対応WG報告</p> <p>4月6日 第10回            ①委員会規程改定、同運用基準の策定について            ②文書管理に係る署名・捺印に関する取扱いについて            ③ジュニア会員に係る検討事項            ④苦情対応WG報告            ⑤大阪地域会より喪失候補への対応について</p>
2	<p><b>広報委員会</b> 委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次</p> <p>本部広報会議web 3/4, 4/8            広報ブルテン編集会議 2/24, 3/10+A9:F12            ・3月31日にブルテン3月号をメール配信しました。</p>
3	<p><b>教育委員会</b> 田中康裕</p> <p>報告事項なし</p>
4	<p><b>表彰委員会</b> 鯉坂徹</p> <p>報告事項なし</p>
5	<p><b>建築家資格制度実務委員会</b> 委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久</p> <p>2/9(火) 職能資格制度・建築家資格制度実務委員会合同委員会開催。            2/19九州支部実務委員会開催、 3/8(月)職能資格制度・建築家資格制度実務委員会合同委員会開催、            3/24本部認定評議会開催、 全国：新規登録26名、更新287名、再登録41名、再登録率75.3%。            内九州：新規登録2名、更新17名、再登録2名。再登録率76.5%。            4/6（火）職能資格制度・建築家資格制度実務委員会合同委員会開催。</p>
6	<p><b>財務委員会</b> 柴田真秀</p> <p>3月6日、事務局からの2021予算案について審議。4月6日、事業助成活動報告等審議。</p>
7	<p><b>業務委員会</b> 和田正樹</p> <p>報告事項なし</p>
8	<p><b>全国学生卒業設計コンクール実行委員会</b> 田中康裕</p> <p>報告事項なし</p>

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
報告事項なし			
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
報告事項なし			
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
1月20日 第7回 ①文化財ドクターへの対応 ②HA（ヘリテージアーキテクト）の推進 ③京都近現代建築展・安田家実測調査と保存事業			
2月17日 第8回 ①福島県沖地震の被害状況（大きな被害は無） ②現地講座WEB補填について（新宿御苑等） ③JIA文化財修復塾のホームページについて ④来年度文化庁助成申請について			
3月17日 第9回 ①福島県沖地震の調査協力の報告 ②日本建築まちづくり適正支援機構と協力 ③第9回総括講座の開催について ④現地講座WEB補填講座について			
4	文化財ドクター	柴田真秀	
報告事項なし			
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
報告事項なし			
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
報告事項なし			
6	JIA環境会議	福田展淳	
報告事項なし			
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
■活動助成金事業 まち並みレビュー ・12/16：第1回実行委員会 ・1/15：第2回実行委員会 ・2/15：第3回実行委員会 ・3/19：第4回実行委員会 ・4/21：第5回実行委員会 ■SDGs 発表資料作成 ・2/24：情報のネット収集			
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
JIA建築年鑑作成中			
9	国際委員会	佐々木寿久	
・2/17 国際委員会（web）にて実施 ・2/19 国際webinar「ベトナム発でとりくむ建築設計」を開催 ・3/19 国際webinar「ウガンダの蠢くコンテキスト」を開催 ・3/22 国際委員会（web）にて実施			
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	
1/1, 1/25, 2/10, 3/4, 3/18, 3/31年度内報告に向けて協議。			
11	デザインレビュー	佐々木寿久	添付資料 1
DR社会人会議 2/4. 3/4. ・3/11 ・2/14 予備審査 ・3/13 オンライン公開審査 ・3/14 最終審査 DR高校生レポーター 3/14			
12	小規模建築WG	佐々木寿久	
・2/17 小規模建築 WG（web）にて実施 ・3/23 小規模建築 WG（web）にて実施			

③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
4/6 第9回総務委員会 ・入退会審査 ・委員会規程、運用基準について <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書管理の署名捺印について：基本的に捺印廃止で上程</li> <li>・ジュニア会員：専業兼業については正会員に準ずる</li> <li>・苦情対応WG報告 ・正会員の資格喪失について</li> </ul>			
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	
報告事項なし			
3	教育委員会	田中康裕	
報告事項なし			
4	表彰委員会	鯨坂徹	
報告事項なし			
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久	
5月11日（火） 職能・資格制度/建築家資格制度実務合同委員会開催			
6	財務委員会	柴田真秀	
報告事項なし			
7	業務委員会	和田正樹	
報告事項なし			
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
5月19日webにて委員会予定；6月のコンクールに向けて、役割、スケジュールの確認予定			

④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
	報告事項なし		
2	JIA保存再生会議	田島正陽	
	報告事項なし		
3	文化財修復塾	鯨坂徹	
	4/16 第10回WEB会議 ・各支部の報告：福島県沖地震の調査協力を福島市での地震災害の調査 ・奈文研に表敬訪問 ・アーカイブを立ち上げた ・第9回総括講座の件 ・次年度の体制、年次報告について 5/12 第11回WEB会議 ・第9回総括講座の報告（塾生9名出席） ・修了証発行について ・各支部への塾生募集の依頼について ・資料作成と、ヘリテージアーキサロンの開催について		
4	文化財ドクター	柴田真秀	
	報告事項なし		
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次	
	報告事項なし		
5-2	・JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次	
	報告事項なし		
6	JIA環境会議	福田展淳	
	報告事項なし		
7	JIAまちづくり会議	松島逸人	
	報告事項なし		
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男	
	報告なし		
9	国際委員会	佐々木寿久	添付資料 1
	・4/16 国際委員会（webにて実施） ・4/23 国際webinar「変革期の建築家とはーミャンマー編」を開催 ・5/14 国際委員会（webにて実施） ・UIA2021RIOが2021.7.18～22にて開催（ハイブリット形式）に出席 メインテーマ「世界の都市デザイン」 ・UIAゴールドエンキューブ賞（「テーマは建築家と子供達」）が発表された 残念ながら日本からの受賞は無し、ほぼヨーロッパアンセンターの受賞となった 来年度、対象物件がある方はお知らせ下さい（資料添付）		
10	業務委員会パンデミックWG	柴田真秀	
	報告事項なし		
11	デザインレビュー	佐々木寿久	
	報告事項なし		
12	住宅等連携会議（旧小規模建築WG）	佐々木寿久	
	・5/13 第1回住宅等連携会議（web）にて実施 理事会にて、会議名が正式に決定 現在、下記の3項目について会議中 ①地域情報の共有と社会へ向けての発信 ②地域建築設計事務所の業務環境改善 ③法規制の改善		

### 福岡地域会役員会（第7回）

- 日時：2021年1月30日土曜日18：00-19：30
- 場所：WEB形式
- 参加人数：12名
- 第6回役員会議事録確認
- 審議事項
- 1.入退会について
- 協議事項
- 1. 2021年度予算について
- 2. 建築展について
- 3. デザインレビュー高校生サポーター募集の件について
- 4. その他 事務局保管の過去帳簿について
- 報告事項
- 1. 会長報告（福田地域会長）
  - ・8団体へ新年の挨拶を書面にて実施
- 2. 九州支部長報告（佐々木副支部長）
  - ・12/15理事会をリモートで実施
  - ・まちなみレビュー助成金の承認
  - ・法人協力会の入会基準の見直し検討中（建設業許可の「一般」を対象）
  - ・25周年賞について 輝北天球館が現地審査へ
  - ・東海支部が六鹿会長に全国大会の今後の在り方を提案
  - ・支部保存再生委員長が田島氏から柴田氏に交代する
- 3. 事業室報告4.企画運営室報告は割愛



第7回地域会役員会風景

### 福岡地域会役員会（第8回）

- 日時：2021年3月6日土曜日18：00-19：30
- 場所：WEB形式
- 参加人数：14名
- 第7回役員会議事録確認
- 審議事項
- 1.入退会について
- 2.2021年度事業計画について
- 協議事項
- 1. 建築展について
- 2. 2021年度決算（案）について
- 3. その他
- 報告事項
- 1. 会長報告（福田地域会長）
- 2. 九州支部長報告（佐々木副支部長）
  - ・支部総会
  - ・「SDGsフォーラム」のプレフォーラム
  - ・ケンバイの勉強会
  - ・今年度の支部会員入退会数
  - ・JIA新人賞3名が決定
  - ・本部にて、「パンデミック対応ワーキンググループ」発足のための委員会
- 3. 事業室報告4.企画運営室報告がおこなわれた。



第8回地域会役員会風景

### 行政連絡委員会

福岡建築行政研究会、第19回臨時会に出席しました

日時：2021年3月25日 10：30

場所：天神ビル11階5号会議室

（担当：有吉兼次）

デザインレビュー2021 (支部事業)

今回で26回目の開催となった「デザインレビュー」は全国各地の大学、大学院、専門学校、高専などで建築を学ぶ学生達の意欲的作品の講評を通して、現代建築や都市環境を取り巻く諸問題を議論し、デザインの可能性とリアリティについて、広く意見を交換する場を提供する活動です。学生デザインのレベルを高めることはもとより、現代の建築批評や建築・都市デザインに対しての刺激となることを目的としています。佐賀、福岡近郊の大学の有志が学生実行委員会を立ち上げ、JIA九州支部が事務局を担い、支部会員が実行委員会に加わり、学生をサポートするかたちで企画を進めてきましたが、今回も昨年に続き、新型コロナウイルスの影響により、通常開催の中止を判断しました。その為、当初予定していた会場をアイランドシティ中央公園ぐりんぐりんから福岡大学の講義室としました。無観客とした上で、1日目(2021年3月13日)はクリティーク、司会と実行委員だけの現地開催を行いました。開会式を行い、出展者はオンラインにて、クリティーク、司会とディスカッションを行うことができました。2日目(3月14日)は、決勝選抜、プレゼンテーションなどの様子をLIVE配信を行いました。模型やプレゼンテーションボードを展示することができなく、クリティークにとっても、出展者にとっても思いを伝えることが難しい状況でありましたが、オンライン上で活発に議論がされている状況が得られたことは一定の成果であったと思います。例年通りの現地開催とするか、あるいは昨年のようなオンライン開催とするかの2パターンでの準備を行う必要があった学生実行委員会は本当に大変でありましたが、無事開催することができ、また来年につながる意義のあるものとなりました。

また、JIA九州支部では、建築教育支援活動の一環として、高校生を対象に『デザインレビュー2021』への見学参加者を「高校生レポーター」として募集しました。各地域会から普通科・工業科を問わず、これから進路を検討していく高校生に対して、『デザインレビュー2021』で全国各地の建築を学ぶ学生たちの取り組みや作品に触れ、建築の楽しさや魅力を感じてもらう事業です。今年度は、オンラインでしたが、各地域会で配信を「高校生レポーター」とともに視聴することができました。

次回のデザインレビューの開催がどのような形式をとるものか見通しはつかないが、その時々状況に柔軟に対応し、未来ある学生にとって十分なパフォーマンスが発揮できる場所となるように続けていきたいと思っています。(担当：池浦順一郎)

協力会

下記のとおり「協力会オンラインセミナー」プレを開催しました。今回は協力会数社の方にご協力願ひ、試験的にセミナーを開催しました。その結果を検証し、4月から正式にセミナーを開始しようと考えています。毎週金曜日の12時30分は協力会オンラインセミナーを周知していきたいと思ひます。概ね20名から30名会員、協力会会員が視聴されました。

「協力会オンラインセミナー」  
 □期間：2月12日～3週間程  
 □日時：

- 2月12日(金) 昼12:30～50(20分) (株)カッシーナ・イクスシー
  - 2月19日(金) 昼12:30～50(20分) (株)ケーワン
  - 2月26日(金) 昼12:30～50(20分) アイカ工業(株)
- 形式：ZOOMによるオンライン





## 福岡地域会役員会（第9回）

■日時：2021年4月10日（土曜日） 16：00～17：45

■場所：こととば那珂川 2階会議室

■参加人数：12名

第8回役員会議事録確認

### ■審議事項

1.入退会について 2.名誉会員推薦について

### ■協議事項

1. デザインレビューについて

4. その他

### ■報告事項

1. 会長報告（福田地域会長）

- ・入退会、休会願いの受理報告。
- ・会計監査を完了したことを報告。

2. 九州支部長報告（松山支部長）

- ・会計監査を完了したことを報告。
- ・DR高校生レポートは支部全体で25名の参加があった。
- ・3月26日本部理事会がリモートで開催された。
- ・11月4,5,6日に沖縄にて全国大会を予定している。
- ・支部でオンライン会議について

3. 事業室報告

- ・行政連絡、登録建築家の更新状況を報告。

4. 企画運営室報告

- ・まちと建築展の中間報告を行った。4月3日は例会も開催された。



第9回地域会役員会風景

「まちと建築展」事業報告

JIA福岡地域会では、2020年度の事業として建築展を開催しましたのでご報告させていただきます。はじめに、JIA会員の皆様・協力会の皆様には今回の建築展につきまして多くのご支援を頂きました事、御礼申し上げます。おかげさまで、建築関係者、市民の方々、建築学生を含め多数の来場を頂きました。改めて御礼申し上げます。福岡地域会としましては20年ぶりに行われた建築展であり、福田地域会会長を先頭に、どのように建築展を行うか様々な意見交換を行ってまいりました。今回は、率先して建築の取り組みなどを行われている市町村「まち」に、我々建築家が出向いていながら、まちの人々、行政の方々と対話できるような建築展にしたいと考え、展覧会の会場選定、構成を考えてまいりました。今回の会場として選んだ那珂川市は福岡市の近郊で2年前に町から市に昇格し、今も発展を続けています。その発展は既存の建築物を積極的に改修活用しながらプロポーザル方式を採用するなど、設計者と市民目線の施策であり、これからのまちづくりの方式として一歩進んだ取り組みがなされています。展覧会は、これらの現状を市民の皆様へ改めて感じて頂き、「まち」における建築とのつながりを深めていきたいと思企画させていただきました。参画意識の高い市民が多く集まる那珂川市と、豊かな「建築」を掛け合わせる事によって、より一層、居心地の良い「まち」をつくる「きっかけ」になればと思っています。会期のオープニングイベントでは、那珂川市長もお越しになりご挨拶をいただきました。市長からは「ただ新しいものを作るだけでなく、コンセプトを大切にしまちづくりを行いたい」との言葉を頂き、プロポーザル方式を主体とした建築の作り方を市民と共に作り上げたいという想いもお聞きする事ができました。設計入札によらない方法でまちを作り上げる事についても議論された次第です。また、那珂川市のプロポーザル審査に加われてまちの発展を見てこられた、鮎川会員からもご挨拶を頂き、金沢のまちづくりの例を挙げられて「建築施策によって「まち」が発展していく事ができる」という力強いお言葉もいただきました。トークセッションでは、那珂川でプロジェクトを行っている4人の建築家が「まちと建築」「那珂川市」をキーワードに討論しながら、市民や建築界、行政に対するトークを展開し熱のある議論が交わされました。2階のメイン会場は、7.2Mの大きな円卓に各参加者の模型を並べ、建築への想いがにじみ出る作品が並べられました。また、今回は建築家の人となりを知って頂く為に、あらかじめいくつかの質問に答えていただく形でプロフィールを構成する工夫を行いました。これにより、建築家本人の性格や特徴がわかる展示を行っています。バス待合所の横にある1階のブースでは、那珂川で2年前にオープンした市施設「五ヶ山クロススペース」と今年度から4か年で改修工事が行われる「ミリカローデン那珂川」の模型やパネルが展示され、市民の人が足を止めて見入る光景が見られました。オープニングの2日間で来場は300人に迫る状況で、会期中10日間での来場者は1000人になるなど、大変盛況をいただきました。今回の建築展で、建築家の職能を伝え、文化を伝え、

模型などにより、我々が大切にしている事を伝える事は、何よりも大事であると実感した次第です。他の建築家の思想や人となりを知る事が出来た事も併せて大切な10日間となりました。定期的な開催が出来る様に進めていきたいと思しますので、皆様のご支援をお願いしたいと思います。

建築展概要

1. 後援依頼 「まちと建築展」 令和3年4月3日～4月12日の10日間
2. 場所 博多南駅前ビル2階イベントスペース
3. 主催 公益社団法人 日本建築家協会 福岡地域会
4. 共催 ことば那珂川・株式会社ホーホウ
5. 後援 那珂川市／那珂川市商工会／FBS福岡放送／RKB毎日放送／西日本新聞社／九州朝日放送／一般社団法人 日本建築学会九州支部／公益社団法人 福岡県建築士会／一般社団法人 福岡県建築士事務所協会／一般社団法人 日本建築構造技術者協会／6. 協賛主に那珂川市の皆様にご支援いただきました。株式会社平和建築／株式会社ネクステップ／株式会社日本パイプクリーニング／畑中土木／有限会社清和興業／ふくろうの森保育園／筑紫ガス株式会社／株式会社イクスワークス／有限会社エフツアート／大光電機株式会社／那珂川の喫茶店・キャプテン



オープニングセレモニー 例会風景



まちと建築展 風景

■ 2020年度JIA長崎地域会 第6回例会

- 日時 2021年3月8日(月) 16:00～17:00 WEB開催
- 出席 出席者12名

- 1、WEB公開セミナー〈長崎建築家セミナー2020〉について
- 2、地域会規約について
- 3、九州沖縄設計4団体災害ネットワークWG会議について
- 4、JIAまちづくり委員会について
- 5、DR、DR高校生レポーターについて
- 6、2021年度 第34回 通常総会について

■ WEB公開セミナー〈長崎建築家セミナー2020〉

- 日時 2021年3月12日(金) 17:30～19:30 (WEB開催)
- 出席 参加登録 90名程度

長崎総合科学大学 工学部建築学コース 教授 山田由香里  
 「20年で見た、長崎県の建築・街並み・景観」  
 をテーマに講演をしていただきました。



熊本地域会月例会（第8回）

■日時：令和2(2021)年2月25日木曜日18：30-20：00  
 ■参加人数：12名

1.審議事項、協議事項

- 1-1：建築課作品展、紹介冊子の作成について→進捗報告
- 1-2：地域会規則の制定について  
 →準会員、ジュニア会員、学生会員の定義については（改定前の7条のように）定義が必要。（前回継続協議）
- 1-3：25年賞応募について  
 →（主旨）スケジュール、進め方、応募作品の選抜協議
- 1-4：熊本県に対するJIA連携への要望書について  
 →継続協議
- 1-5：今年の新年会について  
 ・新年会→未定（コロナ拡大に伴い開催時期の検討）
- 1-6：来年度事業計画について  
 →報告
- 1-7：3月地域会通常総会の日程と内容について  
 →実施できなかった新年会の代わりに、花見と懇親会ができたかと考えています。

2.報告事項、確認事項

- 2-1：7月豪雨災害への支援金205,000円について  
 →人吉の文化財の建物の報告資料作成用に使用予定

熊本地域会総会

■日時：令和3年(2021)年10月22日木曜日18：30-20：00  
 ■参加人数：13名+松山支部長

- 1号議案 2020年度の事業報告
- 2号議案 2020年度の収支決算報告 監査報告
- 3号議案 役員改選（本年度の改選はなし）
- 4号議案 2021年度の事業計画（案）
- 5号議案 2021年度収支予算（案）  
 滞りなく承認されました。

その他 リモート作品展の方向  
 →出力した成果物を配布 今後メールでの送付先を選定する



総会の様子



懇親会の様子

■2020年度 第9回例会

日時 2021年1月19日(火) 19:15～20:15  
 場所 ホルトホール408会議室  
 出席者 19名  
 JIA会員 出席 10名、委任状 7名、欠席 2名 (17/19)  
 協力会員 18名、県外会員 0名、一般 1名  
 議事録作成者 坂本会員  
 議事録署名人 松田会員

◆内容

1. 確認事項 高橋幹事  
 出席者人数の確認を行った。  
 会員数19名の内、出席者総数17名(委任状による出席者数7名含む)、欠席者2名により、例会が成立する。

2. 会長挨拶  
 ・重田会長から、新年の挨拶をいただきました。

3. 報告事項 重田会長

○新入会員紹介  
 アダル様：紹介・挨拶

○報告事項 重田会長  
 支部役員会について  
 木の匠育成事業の終了報告  
 インテリア設計士コンペ協力

○協議事項 高橋幹事  
 2021年度事業計画(案)・予算(案)  
 インテリア設計士コンペ協力への教育支援活動としての予算  
 Web例会についての提案



4. その他

重田会長からイベントのお知らせ  
 大分県木造住宅等推進協議会様より『木つかいフォーラム』の案内

5. 例会企画

○作品紹介 19:30～20:00  
 新入会員の設計工房一宮 一宮 嘉宏 会員から  
 作品の紹介をしていただきました



○自社PR 20:00～20:15  
 アダル様から商品の紹介と説明をしていただきました。



4. 閉会 竹宮副会長  
 竹宮副会長より、新型コロナの感染状況によっては2月の例会はWebでの例会開催をする旨のお伝えいただき閉会の辞があり散会しました。

■2020年度2月（第10回）例会

日時 2021年2月16日（火）19:00～19:30  
 場所 zoomを利用したweb会議（大分地域会初）  
 出席者 20名  
 JIA会員 出席 12名、委任状 5名、欠席 2名（17/19）  
 協力会員 15名、一般 5名  
 議事録作成者 足立心也会員  
 議事録署名人 山崎真司会員

◆内容

1.確認事項 高橋幹事  
 出席者人数の確認を行った。  
 会員数19名の内、出席者総数17名（委任状による出席者数5名含む）、欠席者2名により、例会が成立する。

2.報告事項

○副会長挨拶 竹宮副会長  
 ○支部役員会の報告 高橋幹事  
 ①デザインレビュー2021高校生レポーター募集  
 デザインレビュー2021自体は、WEB開催になる方向。  
 高校生レポーターについて、大分では、3月14日（日）12時～17:00、決勝戦の様様をWEB中継視聴。ホルトホールを利用して、1～5名の募集想定。（引率の入場可。会員数名同席予定。）  
 会員、協力会員のご子息等で、4月から高校2・3年生、ご興味のある方がおられれば是非。（詳細は重田会長まで。）

- ②登録建築課審査マニュアル改定案検討中
- ③法人協力会員資格要件について改めて本部理事会にて「総合請負施工を主とするものを除く」の定義付けがなされた。
- ④JIA25年賞決定  
 受賞 4作品。九州（1）  
 …輝北天球館及び輝北うわば公園内の木造建築群（鹿児島県/高崎正治）  
 登録 9作品。九州（2）  
 …ある町医者の記念館（鹿児島県/堀部安嗣）  
 もやい住宅Mポート（熊本県/延藤安弘+もやい住宅設計者集団）
- ⑤パンデミック対応WG  
 中間報告がありました。オンライン、リモートの対応。  
 今後の大会運営についても検討しています。

⑥JIA・SDGsフォーラム：6月25日（金）14:00～17:00  
 オンライン配信。  
 プレフォーラム：3月13日（土）15:00～17:00、オンライン配信。近日中に案内予定。

- ⑦2021年度九州支部総会は、5月22日（土）開催。
- ⑧九州支部HP用名簿内容の確認について  
 再度確認をお願いします。
- ⑨JIA「ケンパイ勉強会」2/15メール済。  
 2/25 15:00～開催。参加希望連絡2/19まで。

○大分地域会  
 報告連絡 竹宮副会長  
 ①大分地域会協力会員（有）グランテックさん 2月4日付  
 で本部承認されました。  
 ②ホームページ会員情報修正について。  
 通常固定ページの改訂のため、追加費用必要¥49,500（税込）  
 →承認されました。  
 ③大分県 設計委託業務改定について  
 （資料は会員にメール済み）  
 ④第1回 九州設計4団体災害ネットワークWG会議開催  
 主には顔合わせと各県の連携状況。今後、九州で設計4団体が連携する意義等整理。（議事録がまだなので、受領後速やかに皆様にお送りいたします。）  
 次回は3月開催。

3. 協議事項 竹宮副会長  
 ○2021年度総会日程について  
 4月20日（火）19:15（19:00開場）で決定。  
 開催方法についてはコロナウイルス感染状況により判断します。懇親会も同様に判断しますが、現段階では見送りの方向で検討中です。

4. 閉会 竹宮副会長  
 竹宮副会長より閉会の辞がありました。



■次回2020年度3月（第11回）例会

日時：2021年3月16日（火）19:00  
 場所：未定（後日連絡）

■2020年度3月（第11回）例会

日時 2021年3月16日（火） 19:00～19:30

場所 zoomを利用したweb会議

出席者 27名

JIA会員 出席 10名、委任状 7名、欠席 2名（17/19）

協力会員 11名、一般 0名

議事録作成者 山崎真司会員

議事録署名人 高橋大介会員

◆内容

1.確認事項 高橋幹事  
出席者人数の確認を行った。  
会員数19名の内、出席者総数16名（委任状による出席者数7名含む）、欠席者3名により、例会が成立する。

2.会長挨拶 重田会長

3.報告事項 重田会長  
①大分地域会協力会員紹介  
（有）グランテック高尾様自己紹介。  
ALCパネルt=37～100を取り扱われております。  
※資料添付しております。

②デザインレビュー2021高校生レポーターの件  
鶴崎工業高校8名、大分工業高校5名、計13名がホルトホールにてオンラインで参加しました。九州内では大分県が一番参加人数が多かった。  
※写真は当日の様子です。



③ホームページ会員情報修正について  
総会までに修正完了予定です。

④第2回九州・沖縄設計4団体災害ネットワークWG会議参加（重田会長）  
3月15日16時～18時に開催されました。  
各県の状況報告がありました。  
大分県内の4団体とのネットワークも連携を取っていきたいと考えています。今後情報があれば皆様にフィードバックします。

⑤その他  
○web例会についてのアンケート結果報告（高橋幹事）  
・参加しても問題なかった：29%（最多）  
・webで良い：15件  
・参加できなかった：  
会社の状況等により視聴できない環境も数件確認された。

○オンラインシヨールームのご案内（協力会員：LIXIL中谷様）  
場所を選ばずに打合せ可能なオンラインシヨールームを情報共有致します。LIXILのホームページ上でもオンラインシヨールームの紹介があり、ホームページから予約可能です。大分県内だけでなく、九州全域での対応が可能です。  
※資料添付しております。

4.閉会 高橋幹事  
高橋幹事より閉会の辞がありました。

■次回2021年度 大分地域会総会

日時：2021年4月20日（火） 18:30（開場：18:00）

場所：未定（後日連絡）

### JIA鹿児島地域会賞

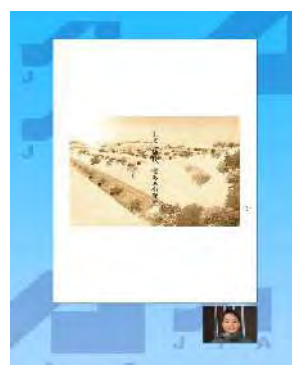
鹿児島地域会では、県内の大学の卒業設計を審査し、優秀な作品にJIA鹿児島会賞を授与する活動を行っています。今年度は2月15日に鹿児島大学、2月24日に第一工業大学の2校の卒業設計作品に対して審査を行いました。時節柄、鹿児島大学ではデータ閲覧による審査となり模型など実際に見ることが出来ず、又両大学共に直接のプレゼンやヒアリングが出来ない中での審査となりました。空気感が希薄な中での審査は作者本来の想いを汲み取る事は困難でしたが、その中でも特に熱い想いが伝わる作品が受賞となりました。惜しくも選外となった作品の中にも上位候補は多数あり、その差はわずかでありました。



鹿児島大学での審査



第一工業大学での審査





### ■ JIA\_Kagoshimaオープン・レクチャー2021#1

- 日時 2021年3月26日（金） 19：00～
- 場所 マークメイザン（鹿児島市名山町9-15）
- 出席 対面25名+Zoom12名 計37名

□鹿児島地域会中原祐二氏による自作のレクチャーを開催。  
Web会議サービスZoomによる配信も併用。  
2020年6月、10月に続き今年度3回目の開催。



オープンレクチャー開催状況



JIA\_Kagoshima オープン・レクチャー 2021  
自作を語る 建築家 中原祐二

3/26 [FRI]  
19:00-20:20

公益社団法人日本建築家協会鹿児島地域会では、2020年からオープン・レクチャーをはじめました。一般の方々や学生のみならずの参加を歓迎します。第4回は、建築家が自作を語るレクチャーとして、中原祐二氏が登壇します。中原祐二氏は、1989年にアーキ・フォーラムを設立、1998年に中原祐二建築設計事務所を改称され、鹿児島で設計活動を行ってこられました。また、鹿児島大学の非常勤講師や鹿児島純心短期大学で講師もつとめられてきました。「自作を語る」と題してこれまでの作品について語っていただく予定です。終了後、移動して意見交換会も20時半から行いますので希望される方はご参加ください。（今後の新型コロナウイルス感染症の状況によりますが、意見交換会は食事ドリンク付き（会費4,000円）で開催を検討中。希望者はご連絡下さい。Zoomでの受講も可能です。）

オープン・レクチャー会場：マークメイザン 鹿児島市名山町9-15（旧ソアプラザ） 定員45人  
コロナ感染対策で、会場の定員を減らして開催しますので、事前にメールで申し込みください。  
メール申込先：kagoshima@jia-9.org

主催 公益社団法人 日本建築家協会鹿児島地域会

フライヤー

### ■ 2021年3月例会

- 日時 2021年3月26日（金） 18：30～
- 場所 マークメイザン（鹿児島市名山町9-15）
- 出席 対面12名+Zoom3名 計15名

□通常会議形式とリモート会議併用で例会を開催。

1. JIA支部活動報告
2. JIA鹿児島会賞について
3. 4月総会の件について
4. 来年度事業案について
5. その他



例会開催状況



例会開催状況

■ JIA長崎地域会2021年度第34回 通常総会

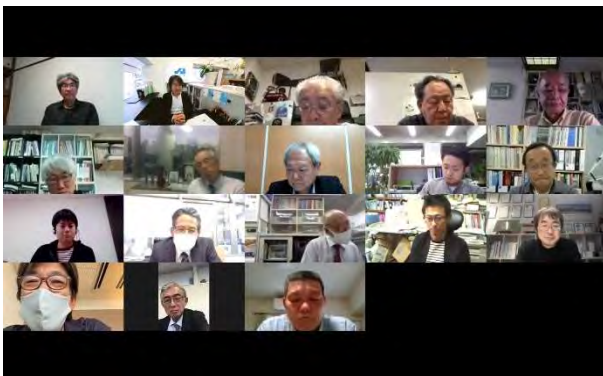
- 日時 2021年4月2日(金) 17:00～
- 出席 会員数20名 出席者14名 委任状3名 計17名  
WEB形式にて総会を開催、松山支部長出席

□役員構成(前年度から変更なし)

相談役 佐々木 信明 建築家資格制度実務委員会担当  
 地域会長 田中 健一郎 総務委員会担当・JIA災害対策会議担当  
 副地域会長 梶崎 象三 広報委員会担当・JIA25年賞委員会担当  
 副地域会長 松本 隆之 JIA保存再生会議担当・デザインレビュー  
 高校生レポーター派遣事業担当

幹事 中野 善弘 JIA環境会議  
 木場 耕志 JIA建築相談会議担当  
 三好 定和 JIAまちづくり会議担当  
 会計幹事 中村 信夫 会計担当  
 監査 奥村 信幸  
 山田 宏彰

今年度の総会はコロナウイルス感染拡大防止の理由からWEB形式により開催し、会員や地域社会へのアプローチ事業を継続して進めて参ります。



■ 2021年 第1回例会・建築技術セミナー

- 日時 2020年5月17日(月) 16:00～18:00
- 場所 WEB開催
- 出席者 13名

報告事項

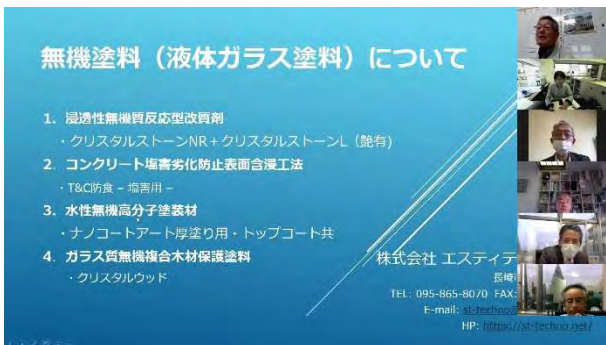
- ①第8回支部役員会報告
  - a、2021年度支部通常総会(5/22 WEBで開催予定)
  - b、支部大会(北福岡会で開催予定 11月頃)
  - c、支部各事業の明確化について
  - d、建築賞の設立について
  - e、支部ブルテン新コーナー企画について
- ②九州沖縄設計4団体災害ネットワークWG会議
- ③JIAまちづくり委員会

協議事項

- ①事業計画について  
6月の見学先は正副会長で検討する(茂木のリノベ宿泊施設オガザイ、平戸城など)
- ②地域会規則について
- ③その他  
長崎地域会の旗を購入予定

技術セミナー

- ①協力会員((株)エスティテクノロジー)の技術セミナー  
「無機塗料(液体ガラス塗料)について」



■ 2021年度JIA鹿児島地域会総会

- 日時 2021年4月27日（火） 18：00～
- 出席 正会員数28名 出席者15名 委任状11名 計26名  
※支部長代理として佐々木寿久副支部長のリモートご参加

□対面通常会議形式並びにリモート参加形式併用で総会を開催

□代表挨拶 鹿児島地域会代表 肥後 潮一郎

□支部長挨拶 九州支部副支部長 佐々木 寿久

□議長選出 議長 岩田 幸千

□議事録 議事録作成人 志賀 隆行  
議事録署名人 藤崎 松一郎

□議事

- 議案第1号：2020年度事業報告書承認の件
- 議案第2号：2020年度収支決算書承認及び会計監査報告の件  
※議案第1号、議案第2号を承認

- 報告第1号：2021年度事業計画報告の件
- 報告第2号：2021年度収支予算報告の件



地域会総会



意見交換会



意見交換会

## 編集後記

早い梅雨入りでしたが初夏を感じる日々が続き、紫陽花が長雨を待っているようにも感じます。

今回も執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

オピニオンは古川さん「省エネ法と気候風土適応住宅」。日本は四季があり、季節の移り変わりを感じる素晴らしい環境だと思えます。省エネや高気密住宅、ZEH、ZEBと言葉だけが先行している昨今ですが、積極的に五感で自然を感じる環境を作り出していくことが私達の仕事の大きな使命であると思いました。ブルテン新コーナの企画として始まりました「支部長漫遊記」。初回は鹿児島で開催されました。同世代の建築家と語り合える場ができるキッカケとなったり、支部長や先輩方の厳しく優しい批評が将来の良い作品づくりのキッカケとなったり、目標とする背中、建築家としての生き方が見えたり、様々な相乗効果が生まれてくる企画と感じました。矢作さんの「コトづくり、モノづくり、ヒトづくり～ご縁に感謝しながら～」では先生自身が恩師や先輩から受け取った優しさが次の教え子たちに伝わり、暖かく見守る優しさとして厳しい建築設計界で生きていく心の支えとなっているはずです。柴田さん、2年間本部理事大変お疲れ様でした。いつも本部理事会の内容をわかりやすくお伝えいただき感謝いたします。全国で毎年100人程度会員数が減少しており、支部、地域会単位でも会存続のアイデアを議論していく場が必要と感じました。坂本さん『めがね橋』では全国の1/4のめがね橋が大分県に現存していることに驚きました。150年以上前の江戸時代につくられ石橋が自然に溶け込みながら現代の日常に溶けこんでいるフォルムは削ぎ落とされた美しさを感じます。急な流れに対応するため堅固な石橋。先人の技術、知恵に頭が下がります。石川さん『2007年 JIA九州支部大会の思い出』では14年前の支部大会、レセプション、建築塾、建築展、基調講演、パネルディスカッションなどフルスペックの支部大会準備の大変さを感じますが、地域会のみなさんが楽しみながら、手作りで協力して作り上げた支部大会像が目には浮かびます。夜食の手作りカレーや合宿場で下山幹事長が食べているおでんの写真を拝見するとほっこりするJIAらしさを感じます。白濱さん『私の愛車の履歴書』ではISUZU PIAZZAの写真を拝見し、大変懐かしく感じました。良いメンテナンスが継続できれば40年も走り続けることに驚きました。車は数年で乗り換えとよく聞きますが、好きなものを大切に使いつづけることは大変ステキで、長く愛されるものづくりは私達の職能と同じだと思います。「わさもん」では新入会員の豊田さん、山崎さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。これからよろしくお願ひいたします。今年度は支部長漫遊記が開催されるため、「わさもん」コーナのページ数増を予定しております。

昨年度以上に魅力ある誌面作りに務めていきたいと思っておりますので、今年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

広報副委員長 有吉兼次

